

試料・情報分譲申請用研究計画書(概要)						
研究番号	2024-0005	主たる研究機関	京都大学		分担研究機関	なし
研究題目	震災体験が人間の心理状態、行動、脳・認知機能に与える影響の情報学的方法論による解明			研究期間(西暦)	承認日 ~ 2026年11月30日	
実施責任者	花川 隆	所属	大学院医学研究科	職位	教授	
研究目的と意義	本研究では、震災が震災後の心理状態や脳の関係にどのような影響を与えたかを、震災後の様々な質問項目に対する回答に基づいて、実際にどの程度の心理的影響があったのかや、あるいは、震災前の心理状態はどうであったかを、統計的、情報学的方法で解析して推定します。また、この推定値と、MRI画像データや認知機能のデータとの関係を分析することで、震災の心理的影響と脳の構造との関係を明らかにします。加えて、食行動と心理的影響度の関係も、探索的に解析を進めます。これらを通じて、大規模災害が人間の心身に与える影響を科学的に解明し、将来の災害時の心理的支援・介入戦略の立案に役立ちます。また、震災体験のような重大な出来事が人間の心理状態や脳・認知機能に与える影響の理解を通じて、人間の脳・認知・心理の働きのレジリエンス(回復力)に関する理解を深めることができます。					
研究計画概要	本研究では、以下3つの研究を実施します。 1. 震災体験による心理状態の変化の解析: データから被災状況、心理状態・心理特性、生活環境や社会的繋がりのような社会・環境の関する項目を統計的に分析し、震災体験の心理的影響度や被災前の心理状態を推定します。 2. 震災体験の脳・認知機能に対する影響の解明: 心理的影響度と脳構造・認知機能との関係を統計的に解析し、脳・認知機能に震災による心的負担が与えた影響を明らかにします。 3. 心理状態と行動に対する震災体験の影響の解明: データベースの食行動に関する調査項目を用いた解析を行い、心理的影響度との関係を分析することで、震災体験が人間の食行動に与えた影響を明らかにします。					
利用するもの	対象: <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民コホート調査 <input checked="" type="checkbox"/> 三世代コホート調査 試料: <input type="checkbox"/> DNA <input type="checkbox"/> 血漿 <input type="checkbox"/> 血清 <input type="checkbox"/> 尿 <input type="checkbox"/> 母乳 <input type="checkbox"/> 単核球 <input type="checkbox"/> EBV不死化細胞 <input type="checkbox"/> 増殖T細胞 情報: <input checked="" type="checkbox"/> 基本情報 <input checked="" type="checkbox"/> 調査票情報 <input checked="" type="checkbox"/> 検体検査情報 <input checked="" type="checkbox"/> 特定健康診査情報 <input checked="" type="checkbox"/> 生理機能検査情報 <input type="checkbox"/> メタボローム解析情報 <input type="checkbox"/> マイクロバイオーム情報 <input checked="" type="checkbox"/> 認知・心理検査情報 <input checked="" type="checkbox"/> MRI画像解析情報 <input checked="" type="checkbox"/> MRI画像情報 <input type="checkbox"/> 全ゲノム解析情報(全て) <input type="checkbox"/> 全ゲノム解析情報(特定領域) <input type="checkbox"/> SNPアレイ情報(全て) <input type="checkbox"/> SNPアレイ情報(特定領域) <input checked="" type="checkbox"/> その他の情報(家系情報)					
期待される成果	この研究の結果は、震災のような個人によって深刻な出来事の体験が、人の認知機能や脳機能に与える影響を明らかにすることができ、今後、このような震災が起きた場合に、どのような対策が可能であるかの知見を得ることが期待されます。					
これまでの倫理審査等の経過および主な議論	京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院医の倫理委員会で承認されています。					
倫理面、セキュリティー面への配慮	データは、誰のデータであるかがわからないように匿名化された状態で、京都大学に提供されます。データは、ネットワークに接続しない装置にパスワードを設定して保存します。データは全て統計的に処理され、学会等で発表を行う際にも、例えば参加者全体の平均値など、統計値のみをほこし、個人のデータが公表されることはありません。					
その他特記事項						
*公開日: 2026年5月7日						